

中部ブロック会報 第36号

2021年度中部ブロック研究会 2022年2月26日(土)
開催:オンライン(Zoom)

【2021年度・中部ブロック研究会を終えて】 ブロックリーダー 中川 雅人(中部学院大学)



今年もこうして会報をお届けできることを大変嬉しく思います。ご多忙の中、ご発表、ご参加いただいた皆様にあらためてお礼申し上げます。さて、学会がオンラインで開催されることも日常となり、DXが社会に浸透してきたことを実感します。一方で、対面の重要性も改めて認識されつつあります。特に議論の深化という点において、発言のタイミングや時間を気にせず議論できることや、移動は大変ですが、日常から離れた場所で、普段会えない研究者と研究にのみ没頭できる環境に身を置くことは大きな対面のメリットだといえます。今後は、対面と遠隔のメリットを活かした、ハイフレックスの開催も検討する必要があると感じております。

研究発表①【初年次教育におけるロジカルシンキングの授業検討】

○米本 倉基(藤田医科大学)



米本 倉基 先生

本発表は、大学教育に強く求められる「直感や感覚的に物事を捉えるのではなく、筋道を立てて矛盾・破綻がないように論理的に考え、結論を出す論理的思考や論理的な考え方」、すなわちロジカル・シンキングにおける初年次教育プログラム設計の事例報告である。具体的には、2022年度に発表者が勤務予定の大学経営学部1年生約250名を対象としたビジネス・ベーシックⅠ・Ⅱ授業において、「数量的スキル」「論理的思考力」「問題発見・解決力」のコンピテンシー(遂行能力)の基盤づくりをねらいとした。授業の流れは、前半に数理的思考力を、後半に言語的記述力の修得と訓練を学ぶこととした。発表では、授業実施に際し、想定される授業の意義や効果、課題について有意義な意見が寄せられた。今後は、これら意見を踏まえた授業を実施し、その定義と尺度を用いた効果について報告したい。

研究発表②【看護職養成大学地域枠入試の現状分析と必要な戦略】

○福山 祐介(三重大学大学院)

看護職養成大学における地域枠入試制度の概要と運用上の問題を明らかにし、各大学がより優秀な受験生を獲得するための方策の検討、さらには地域保健医療の更なる向上へ寄与することを本研究の目的としている。

調査の結果、医学部と比較して出願要件に「現役」を課している大学が圧倒的に多いことがわかった。入試実施における制約などはあるものの、出願要件の拡充が重要であることを考察している。

また、病院と連携し、学生の卒業後まで支援を行っている大学が見受けられた。コロナ禍に伴い、卒業後の就職動向は、これまで以上に大学選びの大きな指針となっている。大学の取り巻く環境が大きく変わる中で、このような特色ある取組みを打ち出していくことは、在学生・卒業生の単なる支援に留まらず、受験生獲得というビジネス実務の面でも有効であると考察した。

(※本研究は「非営利・協同総合研究所いのちとくらし」2020研究助成を受け実施した。)

写真不掲載

福山 祐介 先生

研究発表③【秘書検定準1級面接試験対策講座の実践報告】

○坂上 牧子(金城大学短期大学部)



坂上 牧子先生

今回の発表では、秘書検定準1級を取得した2年生が面接試験を受験する1年生へ対策講座を行ったことについて報告をした。

今年度は、12月25日の面接試験に向けて12月1日から24日までに1コマ90分の講座を9回実施し、1年生25人に対して2年生11人が指導を行った。

アンケート調査結果では、2年生からは「教えるのが難しかった」「教える経験ができて良かった」との感想が多く、教える経験が自身の成長に繋がっていることを実感できていた。1年生からは2年生の指導は「わかりやすかった」とのコメントが多く、その理由として年齢が近いことや1年前の受験体験に基づく具体的な指導などが挙げられた。また、対策講座や面接試験を通じて達成感や自己成長を感じている学生もいた。

2年生による面接対策講座は、指導役の2年生と受験する1年生の双方に一定の効果があることや、課題として指導マニュアルの作成や効率的な練習内容の検討などを報告した。

研究発表④【学生の主体性を高めるまちづくりの取り組み】

○上野 真由美・箕浦 恵美子(名古屋女子大学短期大学部)



上野 真由美先生



箕浦 恵美子先生

学校法人越原学園と名古屋市瑞穂区は包括連携協定を結び、地域の活性化やまちづくりに連携して取り組んでいる。この包括連携協定では、大学における教育・研究の成果を、個性豊かな地域社会の形成及び発展に活用することが大いに期待されている。また、越原学園は女子総合学園として、女性が活躍できる魅力あるまちづくりを瑞穂区で推進して行きたいとしている。学生が行ってきたまちづくりの活動が社会的にも認知された結果として、瑞穂区で冊子が配布されたり、学生が制作したコンテンツが瑞穂区役所公式サイトで掲載されたりした。学生が学んでいる情報の知識やスキルを活かし、形として残り目に見える成果となったことは、学生の主体性を高め今後の活動の可能性を広げることに繋がったと考える。

研究発表⑤【プロジェクト・イルミネーションイベント企画制作運営における現場体験の提供】

○谷口 正博(愛知東邦大学)



谷口 正博先生

仕事を創り出すことや起業意識について身を以て実践し一定の成果を出してきた経験は、現在の社会において通用する大きなスキルになるとの考えが基本となり、起業を経て手がけてきた各種事業案件を現場体験の提供という教育プログラムとして策定した。

本学の授業科目である「東邦プロジェクト」はこの試みを実践し、商業案件としてのプロジェクトマッピング、イルミネーションイベントに企画段階から学生参画を行い自発的な活動を促すことで、学生自身のモチベーションアップとともに、技術的専門性の高い学習分野への興味関心も高まることとなった。

この効果は学生自身の企画立案能力と、その実現に向けた具体的な動き方の修得のみならず、将来的な起業意識の向上につながるものであると期待できる成果である。

今後、より多くの学生にこのような体験を提供できるよう、事業拡大と教育カリキュラムとしての充実を目指したい。

【リモート開催について】 ブロック運営委員 坂田 裕介(藤田医科大学病院)

国内で初めて新型コロナウイルスの感染が確認されてから約2年が経過しましたが、いまだウイルスは変異を重ねながら感染拡大を繰り返しており、現在は第6波の真っ只中にあります。その間、我々を取り巻く環境は急激に変化し、変化の前には戻ることができないニューノーマルな時代への転換期のなかで、新たな生活様式や働き方への適応が求められています。

このような状況から、2021年度中部ブロック研究会は昨年度と同様にZoomによるオンライン開催となり、運営委員も各々の場所から会の進行にあたりました。研究会の開催方法には、オンライン開催とオンサイト開催、ハイブリッド開催がありますが、我々はこの2年間の活動を通じて、それぞれの良さに気づくことができました。

今回の研究会を開催するにあたり、運営委員会において昨年度の研究会を振り返り、改善を重ねて開催準備に取り組んでまいりました。実行委員も参加者の皆様もオンライン会議システムの取り扱いにも慣れ、昨年度よりスムーズに進行することができたと思っておりますが、いかがでしたでしょうか。

お知らせ① 【第41回全国大会について】 大会統一テーマ『ニューノーマル時代のビジネス実務』

<大会日程及び会場>2022年6月11日(土)・12日(日) オンライン (Zoom)

1日目は、総会と基調講演、研究発表を行います。2日目は、シンポジウムを企画しております。詳細は決まり次第、全国大会のご案内(第2号通信)でお知らせいたします。是非、ご参加ください。

お知らせ② 【中部ブロック研究助成について】

次年度の研究助成につきましては、現在、運営委員会で検討中です。決定次第、メールでご案内いたしますので、今暫くお待ちください。

ご意見、ご要望等ございましたら、①会員番号、②会員種別(正会員、学生会員等)、③所属、④氏名を明記の上、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

※お問い合わせメール naka@chubu-gu.ac.jp (中部学院大学 中川)

【編集後記】 ブロックサブリーダー 山本 恭子(名古屋学芸大学)

中部ブロック会報第36号を発行いたしました。お忙しい中、原稿をご執筆くださった皆様、編集に関わってくださった皆様に心より御礼申し上げます。本年度の中部ブロック研究会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度と同じくオンライン開催となりました。研究発表ではZoom画面通して活発な議論や意見交換が展開され、有意義な研究会となりました。今回ご参加が叶わなかった皆様へ、会報を通じて研究会をはじめ活動の様子をお伝えできれば幸いです。2022年度第41回全国大会(オンライン開催)は、中部ブロックが運営を担当します。多くの会員の皆様のご発表とご参加をお待ちしております。今後とも引き続きご支援のほどよろしく願い申し上げます。